



特定非営利活動法人  
アクアプラネット会長

## タレント 田中 律子

私が初めて沖縄へ来たのは、14歳の時でした。

その当時モデルをしていて、南西航空（今のJTA）の機内誌の撮影で西表島に連れて行ってもらったのが私と沖縄の最初の出会いでした（23年前です！今、この原稿をなんと偶然というか必然というか、西表島で書いています！）。中学2年生だった私にとって、青い海、青い空、ジャングルのような濃い緑、見るものすべてが新鮮でキレイでした。その撮影の合間に生まれて初めて体験ダイビングをさせてもらった時は、あまりの海の中の美しさに、ただただ感激と感動でした。

この地球には、もう一つこんな世界があったんだ！！  
日本には、沖縄というこんな素

晴らしいところがあるんだ！！

海の中はまるで竜宮城のように、ピンクやブルーのサンゴ礁に囲まれ、これまたカラフルでかわいいうる熱帯魚達が泳いでいる。ふだん生活している陸上とはまったく違い、あの無重力でフワフワ浮いている感覚は、とっても気持ち良くて、すべてのストレスが自分の呼吸と一緒ににはき出され、それと同時に海からパワーをもらって、ものすごくポジティブになれる。もうそれ以来、私は沖縄とダイビングの虜になってしまいました。

10年ほど前、そんな大好きな沖縄の座間味島でダイビングをしていたら、いつもはピンクやブルーのサンゴ礁がその日は逆一面、真っ白だったんです。

「今日のサンゴ、なんかキレイ!!」と思ってしまうくらい、びっくりするほど真っ白で、それから聞いた「白化現象」というサンゴが死んでしまう直前だったんです。それを聞いて本当にショックでした。

それからしばらくして、又同じポイントにダイビングに連れて行ってもらったら、その白化したサンゴはボロボロに折れ、藻がついて、まわりには魚一匹もないし、グレイの世界で、まるで墓場のような海でした。あんなにキレイだ

Series

13

地域の目

# 「私と沖縄」

った海が、こんなに荒れた海になっちゃうなんて…。これはなんとかしなくちゃ、なんとかしたいけど、でもどうしたらいいんだろう…。

そんな時、私の目の前に現れたのが、コーラル親父こと金城浩二さんでした。金城さんは北谷でサンゴの再生、繁殖、移植活動を行っていて、私がテレビ番組のリポーターで金城さんの元を訪れたのが、出会いのきっかけでした。

初めてサンゴの移植をやらせてもらった時、「こんなことが出来るんだ!!」と目からウロコで、「これだ!!」と思ったんです。

私が14歳からダイビングを続けてきたのも、こんなに沖縄が好きなのも、きつとこれをするためだったんだ、サンゴの再生、移植は私がやらなきゃならない使命なんだ!!

そんな気持ちから、3年前に「アクアプラネット」を立ち上げ、2年前、私は会長、金城さんは理事長として、サンゴ再生、移植活動をNPO法人として始動することになりました。「アクアプラネット」では、水槽でサンゴを株分けして、サンゴの赤ちゃんを今現在約4万株ほど育てています。3、4ヶ月ほど水槽で育ててから、北谷沖のポイントの岩盤に水中ドリ

ルで穴をあけ、1本1本手で移植します。最初親指くらいの大きさのサンゴが半年でにぎりこぶしほどの大きさに、1年で手のひらを広げたくらいに成長します。3年前に私が移植したサンゴは、なんと今年産卵もしました!!

地道な作業ではあるけど、移植したサンゴがどんどん成長してるし、サンゴが増えるたびに魚も増えてきているのを見て、喜びと手応えと、続けてきて良かった!と毎回潜るたびに感じます。

今では毎月沖縄へ来て、「アクアプラネット」の活動を行っています（会長でもあり、広報でもあります）。これを読んでくださっている方も、ぜひ「アクアプラネット」の会員になっていただくとうれしいです!!

今までたくさん遊ばせてもらって、パワーを与えてくれた沖縄の海に感謝と恩返しです。100年後の子供達にこの海を残したい!! そのモットーで、これからもサンゴ再生、保護活動を楽しんで続けていきたいと思います。

